

4. 中間追肥の必要性

- 水稻は無効分げつ期（田植え後1か月後頃～）から幼穂形成期に茎の増加や退化を繰り返し根が老化する。
- 中間追肥を施用することで**茎や根の老化を抑え、穂肥の吸収効率を上げる。**



食味や品質が向上する！

中間追肥に用いる資材

資材名	施用量 (10a)	施用時期	備考
PKミックス	20～40 kg	出穂30～ 40日前	
楽々ソイヤー	6kg (1袋)	中干し後	2倍程度に希釈して、水口より流し込む。 3日間 湛水状態を維持し、減水する場合は足し水を行う。

- ・一発肥料はリン酸やカリについては、後から効くものが含まれていないので、中間追肥を施用することで品質や収量の向上が期待できる。